

第3学年「総合的な学習の時間」学習指導案  
単元名 「名人のひみつ調べ隊！」（37時間）

1. こんな子ども達だから

○ 子ども達の住む校区は、○○山の麓に位置し、△△川や□□公園などの自然環境に恵まれた、静かな住宅地である。

公民館での活動も盛んで、PTAとの連携で行われる子ども達を対象とした体験教室や大正琴や茶道などのシニア教室が行われている。また、公民館を通して、シニア教室の方や地域の技名人を紹介してもらい、生活科での昔の遊びを教えてもらったり、総合的な学習の時間で弟子入りさせてもらったりなど、毎年、様々な学習でGTとして協力していただいている。本校は地域とのつながりも深い学校である。

○ 本学級の子ども達は、一学期の単元「花いっぱい大作戦！」の学習を通して、□□公園からのGTや校長先生などに、分からないことや名人のこつなどを積極的にインタビューしたり、友だち同士で意見や質問を出し合ったりすることで、自分の考えを広げることができるということに気づくことができたようである。しかし、子ども達がこれまでに学習した生活科や一学期の総合的な学習の時間では、ものを対象としたものが多い。そのため、インタビューなどで人とかかわりをもち自分の考えを広げることではできても、その人の考えのよさや思いにまで触れることはできていない。

2. こんな教材で

一学期の単元で花名人と出会ったことをきっかけに、校区には様々な特技をもった名人がいることを知り交流をもつことは、次のような点から価値があると考えられる。

- これまでに経験したことの無い技や物に出会うことによって、子どもたちのやってみたい、できるようになりたいという意欲を高めることができる。
- 名人に教わりながら、難しい技に挑戦したり発表したりすることで、達成感や成就感を味わわせることができる。
- 名人との交流を通して、観点をはっきりさせたインタビューの仕方や、分かったことをまとめて発表する仕方などを身につけることができる。
- 名人に教わったことを、自分で試し、その結果や反省をまとめることで、自分で改善点や解決策を考え取り組もうとする態度を育むことができる。
- 名人との交流を通して、その人のすごいところを見つけたり考えや願いにふれたりすることで、名人に対する見方、考え方を深めることができる。
- 校区にはたくさんの名人がいることが分かることで、これまでの地域に対する見方が変わり、地域に関わっていかうとする態度を育むことができる。

3. こんな子どもの姿をめざしたい

- 意欲的に名人とかかわり、あきらめずに技の習得に取り組む中で、名人の思いや願いを知り、自分も人に喜んでもらいたいという意欲をもつことができる。【主体的・創造的な態度】
- インタビューを重ねたり、教わったことを試してみたりすることで、技の知識や名人の願いや工夫を受けとめ、技や名人に対する見方、考え方を深めることができる。【学び方やものの考え方】
- 教科等で身に付けた表現力を生かし、筋道立てて、中心に気を付けながらインタビューや話し合いができる。【コミュニケーション能力】
- 物事に対してあきらめず努力や工夫を行うことや、人にも教え喜びを共有する大切さを生活の中で生かすことができる。【自己の生き方】

#### 4. そのために こんな方法で

つかむ段階では

- 興味を持った名人に自由にかかわることができるように、名人紹介のワークショップを設定する。その後、自分の興味・関心に沿って、これからもっと関わっていきたい名人を決めてグループ編成をする。グループが決まったら、自分たちでゲストティーチャーへの依頼状を書かせる。この時に、どうしてその名人を選んだかの根拠をはっきりと書かせ、子ども自身の学習への意識を高めさせる。

名人とのグループ交流は全部で3回設定する。つかむ段階では、1回目の45分間の交流を設定し、もっとやってみたい、もっと詳しく知りたいなど、子ども達の意欲を高めていく。また、その交流で分かったこと、もっと知りたいことを全体で発表し合い、みんなもっと知りたいことがあるということを確認する。そして、そのことを解決していくためには、名人にただ教えてもらっただけではなく、名人しか知らない技術や思いを探っていく必要があるということに気づかせる。そして、2回目からの交流の課題を設定し、学習に見通しをもたせる。

さぐる段階では

- 2回目の交流「なぜなぜ・なるほど交流」と3回目の「できたよ・わかったよ交流」の90分間の交流を設定する。名人とのかかわりをさらに深めていくために、技の体験の前に、インタビュータイムを設定する。

2回目の交流では、技の習得のみにとらわれないようにするために、名人の技に対する工夫（技術、努力、気持ち）にも目を向けたインタビューをするよう助言をする。

3回目の交流では、さらにインタビューの観点を広げ、「なぜずっと続けているのか」や、「どんな気持ちでやっているのか」などの、名人の気持ちや願いについてインタビューするようにさせる。その過程で、名人は「人に喜んでもらいたい」や「たくさんの人と一緒に楽しみたい」などの強い願いをもっているということに気づかせる。

また、交流の後には、グループ内での活動の見直しやインタビュー内容の付け加えなどを行う。このときに、名人から教えてもらったこと、名人についてわかったことなどをひみつ発見カードに書かせ、発見の広がりが見えるようにさせる。

さらに、全体の場でグループごとの活動の様子、インタビューの内容を報告し合うことで、自分のグループとの視点の違いをとらえさせ、「次は僕たちもあの質問をしてみよう。」というように考えを広げることができるようにする。

ひろげる段階では

- 学習発表会を行う。発表会では、技の発表のみではなく、名人から学んだことや、見つけた名人のひみつの発表というような「人」に視点を置いた発表会ができるようなプログラム進行を設定する。人にも喜んでもらうことのうれしさを実感させるために、名人や保護者などを招待する。

また、グループで名人をパンフレットに表し、「地域名人ブック」にまとめ、お世話になった名人や公民館に届ける活動を設定する。名人ブックを作成することで、自分の住んでいる地域を見直し、「自分たちの住む地域には、名人さんがたくさんいて、人に喜んでもらうためにがんばっている」というように、地域や人に対する見方が変わり、地域に愛着を持ち、地域に関わっていこうという思いを持つことができるようする。

5. 単元計画 (37時間)

段階	配時	学習活動と内容	教師の指導・支援と留意点	評価規準
つかむ	1	1. 「名人」について考える。 ○ 1学期に出会った□□公園の名人さんのことを思い出し、どんなところがすごいのか、なぜ名人と呼ばれているのかを考える。 ○ その他の地域の名人を知る。 (わら細工、マジック、皿回し、エコクラフト、指編み、竹細工、ぶんぶんごま、玉すだれ )	○ 事前に、目指す子どもの姿に沿った名人を探しておく。 ○ 名人とはどのような人のことを言うのかを考えさせることで、名人のイメージをつかませる。	
	2	2. 名人と出会う。 ○ 名人の自己紹介を聞く。 ○ 興味を持った名人のところへ自由に見学に行く。(ワークショップ)	○ 名人との打ち合わせを十分に行い、子どもたちの興味が高まるような話をしてもらう。	○ 興味を持って話を聞くことができる。 ○ 積極的に名人にかかわろうとすることができる。
	1	3. 名人と出会った感想をまとめ、発表する。		
	2	4. もっと詳しく知りたいと思う名人を決め、依頼の手紙を書く。	○ 学習への意識を高めるために、その名人を選んだ根拠をはっきりさせる。	
	3	5. 1回目の協同活動「わくわく・どきどき交流」をする。 ○ 名人にインタビューをしたり、技を教えてもらったりする。  ○ 交流を通して、分かったことやもっと知りたいと思ったことをまとめる。	○ 名人と子どもが互いに楽しく交流をすることができるように、話の聞き方などの指導をする。 ○ 子どもたちの活動がより充実したものになるように、名人には事前に主旨を説明しておく	○ 積極的に名人にかかわりインタビューすることができる。
	1 本時	6. 交流を通して、分かったことやもっと知りたいと思ったことを発表し合い、学習の課題づくりをする。(本時) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                         (全体の課題) 名人のひみつを調べよう。                     </div>	○ 技のみにとらわれるのではなく、人に目を向けることができるような、課題を設定する。 ○ 子どもたちから出た言葉をもとに、課題をつくるようにする。	○ これからの学習の見通しをもち、課題を考えることができる。
	3	7. グループに分かれ調べる計画を立てる。 ○ 学習の流れを知る。 ○ インタビュー内容を決める。 (インタビュー観点) 技の知識、名人の工夫、名人の願いなどについて	○ 1回目の交流で見つけた技の知識や名人の願いをひみつ発見カードに書き込ませる。 ○ インタビュー内容を整理するために、観点ごとにまとめさせる。 ○ 1回目の交流でもっと知りたいと思ったことをもとに、インタビュー内容を考えさせる。 ○ インタビュー活動が充実したものになるように、インタビューの仕方を指導する。	○ 自分の聞きたいことと友達の聞きたいことを比べて、観点ごとにまとめるための話し合いをすることができる。

さ ぐ る 13	2	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">(2回目) なぜなぜ・なるほど交流</th> </tr> <tr> <th>インタビュータイム</th> <th>習得タイム</th> </tr> <tr> <td>(観点) ・技の知識 ・名人の工夫</td> <td>(観点) ・技の習得</td> </tr> </table>	(2回目) なぜなぜ・なるほど交流		インタビュータイム	習得タイム	(観点) ・技の知識 ・名人の工夫	(観点) ・技の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名人とのかかわりを深めるために、必ずインタビュータイムを体験の前に設ける。</li> <li>○ 技の上達のみにとらわれないよう、名人の工夫に目をつけてインタビューするよう助言する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名人に積極的にインタビューし、名人の技の知識や工夫を知ることができる。</li> </ul>
	(2回目) なぜなぜ・なるほど交流									
	インタビュータイム	習得タイム								
	(観点) ・技の知識 ・名人の工夫	(観点) ・技の習得								
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内交流をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひみつ発見カード作成 ・ 練習計画作成 ・ 練習</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ひみつ発見カードに、名人について分かったことを書き込ませ、ポートフォリオに情報を蓄積さる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の感じたことと友達の感じたことを比べながら聞くことができる。</li> </ul>							
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ外交流 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インタビューした内容や分かったことを発表する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の様子、インタビューの内容を報告し合うことで、自分のグループとの視点の違いをとらえさる。</li> <li>○ 「なぜ続けているのか」や「どんな気持ちでしているのか」など、名人の気持ちや願いについてインタビューするよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分が見つけた名人の工夫を話したり友達の話を聞いたりすることができる。</li> <li>○ 名人の思いや願いに目を向けたインタビューをすることができる。</li> </ul>							
2	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">(3回目) できたよ・わかったよ交流</th> </tr> <tr> <th>インタビュータイム</th> <th>習得タイム</th> </tr> <tr> <td>(観点) ・技の知識 ・名人の願い ・名人の工夫</td> <td>(観点) ・技の習得 ・作品完成</td> </tr> </table>	(3回目) できたよ・わかったよ交流		インタビュータイム	習得タイム	(観点) ・技の知識 ・名人の願い ・名人の工夫	(観点) ・技の習得 ・作品完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今までの自分の成長をポートフォリオを使って振り返るよう助言する。</li> <li>○ わからないところは名人に電話などで相談させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あきらめないで最後までやり通すことができる。</li> </ul>	
(3回目) できたよ・わかったよ交流										
インタビュータイム	習得タイム									
(観点) ・技の知識 ・名人の願い ・名人の工夫	(観点) ・技の習得 ・作品完成									
ひ ろ げ る 11	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内交流をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひみつ発見カードの作成。</li> <li>・ これまでの自分を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 7. 完成していない技を練習したり作品を完成させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞き取れないで最後までやり通すことができる。</li> </ul>						
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内交流をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひみつ発見カードの作成。</li> <li>・ これまでの自分を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8. 発表会に向けて、計画を立て、準備する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ひみつ発見カードを見直し、名人の工夫や願いをまとめる。</li> <li>○ 発表の内容や方法を考える。</li> <li>○ 発表原稿を考え、発表の練習をする。</li> <li>○ 名人や保護者に招待状を書く。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技のみの発表にならないように、発見した名人のひみつや、名人から学んだことを発表できるようなプログラム進行を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞いている人に分かりやすく伝えるための発表の仕方を工夫することができる。</li> </ul>					
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内交流をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひみつ発見カードの作成。</li> <li>・ これまでの自分を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 9. 来ていただいた方に喜んでもらうための発表会を行う。(名人、保護者、教師、3年生の子ども)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人に喜んでもらえることのうれしさを実感させるために、名人、保護者を招待する。</li> <li>○ 見つけた技についての知識や名人の願いを振り返らせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ みんなと一緒に楽しみ、友達のがんばりを認めることができる。</li> </ul>					
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内交流をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひみつ発見カードの作成。</li> <li>・ これまでの自分を振り返る。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 11. 技名人ブックを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ブックの内容を決める。</li> <li>○ 名人に届ける。</li> </ul> </li> <li>○ 12. 学習を終えての感想を書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己の高まりについて</li> <li>○ これからの生活にかきたいことについて</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 名人から学んだことから、これからの生活にかきたい事を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ポートフォリオの内容をもとに、名人の思いや願いに目を向けた名人ブックを作成することができる。</li> <li>○ 名人から学んだことをふり返り、自己の高まりや自己の生き方について考えることができる。</li> </ul>					

## 6. 本時指導案

(1) 単元名 「名人のひみつ調べ隊！」 本時 (10 / 37)

(2) 目指す子どもの姿

- 1回目の交流で分かったこと、もっと知りたいことを発表し合い、自分と友だちの考えをべたり考えを広げたりして、これからの学習の課題をつくることができる。

【学び方やものの考え方】

(3) 本時指導の考え方

前時までに子どもたちは、自分の興味・関心に合った名人さんを決め、一回目の「わくわく・どきどき交流」を体験している。この一回目の交流は、形式的なものというよりもお試し体験という意味合いが強く、子どもたちは自分が体験した「技」に対して「難しかった。」「またやってみたい。」という感想はもっているが、名人さんの人柄や思いなど「人」について考えることはまだできていない。そこで、本時ではこれからの学習では技だけではなく、名人が名人と呼ばれるようになった由縁（願い、気持ち、努力）や、名人だからこそ知っている上手にできるための工夫などに目を向けることができるよう、全体の課題を設定していく。

まず、グループごとに分かれ、前回の「わくわく・どきどき交流」で分かったことやもっと知りたいと思ったことを発表する。これは前時までに、色別の付箋紙（赤色と青色）に書きこませておき、同じ内容のものは重ねて整理できるようにしておく。グループ内での発表が終わったら、出た意見を全体の場で発表させる。その際、事前に子どものカードに目を通して用意しておいた板書用のカードを使用する。そして、①分かったこと②もっと知りたいことの二つの観点に分けて板書に整理して、後の学習への意欲化を図る。

次に、全グループの発表内容をもとに、これからの学習の課題を考えていく。この時に、板書で整理した青色（もっと知りたいこと）のカードに着目させ、これを解決していくために、名人にもう一回会う必要性に気付かせる。また、自分も名人に近づくためには、名人と呼ばれるようになった理由や、上手にできるための工夫などを、もっと調べていく必要があることにも気付かせる。そして、全体の課題「名人のひみつを調べよう」を設定する。

最後に本時のふり返りをし、次に名人に会ったときはどんなことを聞きたいかを書かせ、意欲の高まりや課題意識の高まりをみるようにする。

(4) 用意するもの

教師	観点別に整理するプリント	板書用のカード
子ども	色別の付箋	筆記用具

(5) 本時の展開 (別紙)

## (6) 板書計画

めあて

「わくわく・どきどき交流」で分かったことやもっと知りたいことを発表し合い、これからの学習のめあてをつくろう。

写真

写真

写真

分かったこと

- ・道具の使い方を教えてもらったよ。
- ・思ったよりむずかしかったよ。
- ・皿回しをするときはバランスが大事なんだって。

もっと知りたいこと

- ・どうすればもっと上手にできるようになるのかな。
- ・上手に技ができるコツが知りたい。
- ・名人さんは、どれくらい続けているのかな。

どうすればよいか

- ・もう一度名人さんに会う。
- ・もっとくわしくインタビューする。

これからの学習のめあて

名人さんのひみつを調べよう。

配時	学習活動と内容	教師の指導・支援と留意点	評価基準
2分	1. 前時の学習をふり返し、本時のめあてをつかむ。	○ ビデオや写真を使って思い出させる。	
10分	<div data-bbox="174 284 1037 355" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 「わくわく・どきどき交流」で分かったことやもっと知りたいことを発表し合い、これからの学習のめあてをつくろう。 </div> 2. 1回目の名人との交流で分かったこと、もっとくわしく知りたいことをグループで発表し合う。	○ 交流の後のプリントに、観点ごとに書き込ませ、前時までに色別の付箋にも書きこませておく。	○ 自分の分かったこと、もっと知りたいことを友達に発表し、協力して話し合うことができる。
18分	(1) 一人ずつ発表し、観点ごとにまとめる。 ①分かったこと ②もっと知りたいこと	○ 自分の考えと比べながら友達の発表を聞くようにさせる。	
7分	(2) グループでの発表で出たことを、全体に発表する。	○ 同じ内容の付箋は重ねさせる。	
7分	3. 発表したことをもとに、今後の学習の課題を考える。 <div data-bbox="197 858 1014 1058" style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ・もう一回やってみたいな。  ・もっと聞いてみたいことがたくさんあるよ。  ・すぐにできると思ったけど、うまくできなかった。名人さんってすごいなあ。何かコツがあるのかな。 </div> <div data-bbox="174 1082 1037 1129" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> (課題) 名人さんのひみつを調べよう。 </div>	○ 事前に子どものプリントに目を通しておき、板書カードを用意しておく。 ○ 観点ごとに分けて整理し板書する。 ○ 分かったこともあるが、まだもっと知りたいことがあるということに着目させ、また名人に会う必要があるということに気づかせる。 ○ 一回の挑戦ではうまくいかなかった自分と、難しい技が簡単にできる名人は何が違うのかを考えさせ、課題につなぐ。	○ 発表の内容をもとにして、これからの学習の課題をつくることができる。
7分	5. 本時の学習のふり返しとこれからの学習で名人に聞きたいことをプリントに書き、発表する。	○ 子どもの出した言葉から課題をつくるようにする。 ○ 本時のふり返しとこれからの学習の意欲が表れるようにプリントを工夫する。	○ 全体の課題を受けて、これから名人に聞きたいことを考えることができる。
1分	6. 次時の内容を確認する。	○ 意欲を持続できるように、次回の名人との出会いに向けて準備をしていくことを伝える。	